

1 2 教員の資質の維持向上の方策

本学には教員個々人の教育・研究能力の維持向上や事務職員・技術職員等を含めた管理運営や教育・研究支援の充実を図るため教育開発センターに「FD 授業改善委員会」が設けられている。本委員会の主たる任務は、FD の研究開発、授業評価、カリキュラムの検討改革及び FD 研修会の実施である。

<FD>

大学設立の翌年の平成 12 年から、これまでに大学・短期大学部の教職員を対象に 6 回の FD に関する講演会・研修会を行ってきた。

取り上げたテーマは次のとおりである。

- ① 「学生による授業評価と授業改善」(講演)
- ② 「大学改革における教育職員と事務職員の組織的連携」(講演)
- ③ 「パワーポイント研修講座」(研修)
- ④ 「専門職としての大学教員と授業研究」(講演)
- ⑤ 「2002 年度<学生生活実態調査>及び<授業改善のためのアンケート>について」(報告)
- ⑥ 「パワーポイントの作り方・使い方」(研修)
- ⑦ 「学生の創造性を生かす授業」(講演)
- ⑧ 「2005 年度自己点検・評価を終えて—現状と課題—」(報告)
- ⑨ 「ファシリテーションを生かした授業実践」

—指導する教育から支援する教育へ— (ワークショップ形式の応用)

このように本学の FD 活動は、最初、外部の講師を招いて、FD のあり方、学生による授業評価の活用方法、プレゼンテーション・ツールとしてのパワーポイントの使い方などについて講演会を開催し勉強を続けてきたが、平成 16 年には学内で研修会が開けるまでに成長した。今後ともこのような講演会・研修会を定期的で開催して研鑽を重ね、教職員の意識の向上を図り、実り豊かな FD 活動を展開し、併せて、教職員の教育研究セミナーへの参加を推進していく。

<授業評価>

学生による授業評価に関しては、平成 14 年 5 月の教授会で「学生による授業評価に関する基本方針」が策定され、第 1 回授業評価は平成 14 年 6~7 月に実施された。これは、外国語学部が完成年度に達したのを機に、開学以来 4 年間の教育課程を検証し、授業改善のための基礎資料を収集する目的で、全学の教育体制に関する<共通型>と個々の授業に関する<個別型>に分けて実施したアンケート調査である。

その学科目別集計と分析とを行ったのが『自己点検・評価報告書 2002』(平成 15 年 1 月)で、平成 16 年 3 月に大学評価委員会副委員長から詳細な報告が学内研修会で行われ、双方向授業及びパワーポイントの有効性について貴重な示唆があった。

第2回目の学生による授業評価は、平成16年度後期開講になる大学・大学院及び短期大学の全授業科目を対象に実施した。調査対象が外国語学部1学部から全学に拡大されたこともあって、調査項目も第1回の7項29問から4項39問と自由記述に変わった。その調査結果は、学科目別集計だけでなく、全授業科目について質問項目の5段階評価の中間値を担当者の氏名を付して『2004年度北海道文教大学年鑑』（CD-R）に収録されている。

第3回目の学生による授業評価は、平成17年度の前期開講の全科目を対象に実施した。調査項目を第2回目のときに39問と多岐にわたるデータを収集したが、細かすぎて全体像が見えにくいという反省から19問にしぼり込んだものにし、各問いごとに5段階評価を行った。その結果を授業科目ごとに履修人員、アンケートに答えた人員、5段階評価の中間値を付して、学部・学科別及び個人別に集計して、教員に知らせると共に図書館に配置し閲覧に供している。

学生による授業評価は、もとより、授業を改善するための基礎資料を収集するための作業に過ぎない。これらをもとに改善策を立て、授業にフィードバックする方法の一つとして、授業形態・授業方法の適切性、有効性を検証するために「教員による授業の自己評価」が導入され、これらの資料が学科に返却されることで、学部・学部単位で授業改善及び教員の資質向上を推進させるシステムが出来あがった。

平成18年度の学生による授業評価は、前期開講になる全科目を対象に実施した。その結果を学部・学科別及び個人別に集計し、『2005・2006年度北海道文教大学年鑑』（CD-R）に収録する予定。

平成18年度の「教員による授業の自己評価」については、記号回答が可能なように回答欄の簡素化が図られ、平成19年2月に実施した。その結果は学科に戻され、現在、分析検討が進められている。

また、公開授業が7月中旬に、英米語コミュニケーション学科、中国語コミュニケーション学科、日本語コミュニケーション学科及び健康栄養学科で実施された。公開授業の一部の概要は、平成18年度版「教育開発センター年報」に記載されている。

教員の資質の維持向上策についての今後の取り組みとしては、平成18年6月に教育開発センターに設置されたFD授業改善部門で、カリキュラム開発及びGPと密接に連携を取りながら、研究・開発を進め、実践に移していくことになっている。